

新潟県医師会 J M A T チーム 第12班活動報告

新潟市医師会第12班

勝 井 豊

新潟県医師会 J M A T チーム第12班として、5月20日から22日まで石巻市内で、医療活動をしてまいりました。石巻市は旧北上川の河口付近にある漁業の町で、16万の人口を持つ宮城県第二の都市です。海岸から数百メートル内陸まで津波が押し寄せて建物を破壊しました。死者と行方不明者は合わせて6千名近く、震災の直後の避難者数は約4万人でした。5月中旬現在でも165の避難所に約1万人が避難しています。水道が復旧していない避難所や、再津波の危険にさらされている避難所もあるとのことでした。

我々のチームは、石巻赤十字病院内に本部を設置している「石巻圏合同救護チーム」の指示により、石巻南地区内にある門脇中学校の避難所に設置された救護所を担当しました。この地区の中心

には1キロメートル四方の高台があり、学校や公共施設が集中しています。門脇中学校もこの高台にあり、370名が体育館や武道館に避難していました。

救護所には医薬品や衛生材料は十分にあり、不足分は石巻赤十字病院から無償で提供されていました。患者数は1日に約15名で急性上気道炎が多く見られました。地元の医療機関はかなり復旧しており、通常の医療体制に引き継げる時期も遠くないように思えました。ただし、災害により自家用車等を失い、通院の際の交通費が負担となっている市民が大勢いることを、石巻圏合同救護チームは指摘しています。

患者さんのほとんどが家を津波で流されており、首まで海水に浸かりながら高台にたどり着いた人や、家族を津波で失った人などが、避難所で集団生活を送っていました。新潟市医師会チームが石巻市を訪れる機会はありませんが、彼らのことは決して忘れてはならないと感じています。

